



MRI装置を新しくしました!



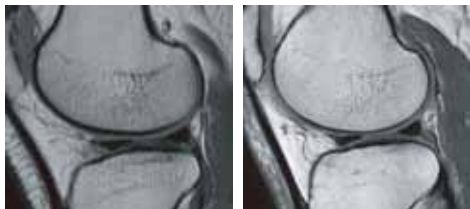
〈導入機器〉 PHILIPS社製「IngeniaProdiva1.5T」

主な特徴

より快適に ・最新のアプリケーションと高感度コイルの組み合わせにより、**撮影時間が大幅に短縮**
・検査時に発生する音を抑制する機能が付き、**検査時の不快感が軽減**

より正確に ・信号を受信するコイルがデジタル化されたことにより、**描出される画像が高画質化**
され、**より正確な診断**が可能になりました。

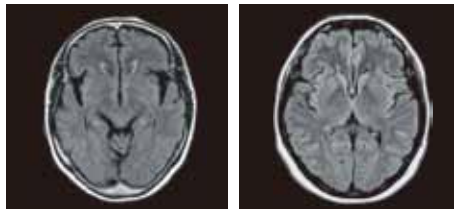
〈膝関節画像〉



アナログ

フルデジタル

〈頭部FLAIR画像〉



アナログ

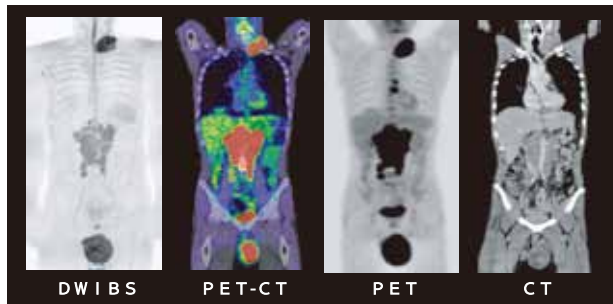
フルデジタル

特殊な撮影なども可能に

・特殊な撮影ができるアプリケーションが備わり、**躯幹部拡散強調画像(DWIBS)**という検査ができるようになります。癌の転移の全身検索として注目されており、PETと併用することにより検出能力が高くなると言われています。

躯幹部拡散強調画像(DWIBS)

DWIBSとは、拡散強調画像(DWI)を用いた躯幹部広範囲撮像を指します。PETは糖代謝を画像化していますが、DWIBSは拡散制限を画像にしています。不明熱、転移検索等、簡易なスクリーニング・フォローとして活用できます。



DWIBS

PET-CT

PET

CT

・CT装置で血管を撮影する場合、造影剤の注入が必須となりますが、導入するMRI装置では造影剤を使用せずに血管を撮影することができ、持病・アレルギー等で造影剤が使えない患者さまも検査ができるようになります。

そもそもMRI検査って？

MRI(=Magnetic Resonance Imaging: 磁気共鳴画像診断装置)検査は、強力な磁石でできた筒の中に入り、磁石と電磁波を利用して体のあらゆる断面を撮像する検査です。撮影時の磁場の調整により、あらゆる方向の断面像を得ることが可能で、さまざまな病変病態を診断することができます。

MRIとCTの違い



MRI



CT

当院には、見た目がほぼ同じのCT装置(64列)もあります。MRIとCTには下の表のとおりそれぞれ得意分野やメリット・デメリットがあり、患者さまの病状に合わせ適切な検査(時には両方使うことも)を実施していきます。

	MRI	CT
撮影に使うモノ	磁力と電波	放射線
得意分野	脳梗塞・脳動脈瘤・脳腫瘍・脳血管疾患・椎間板ヘルニア・生殖器関連疾患・肉離れ・骨軟部腫瘍・靭帯損傷・半月板損傷など	脳出血・肺癌・肺炎・結核・胸水・気胸・腹水・胆石・腸閉塞・尿路結石など
メリット	・造影剤を使わずして血管の描出ができる ・放射線被ばくがない	・撮影時間が短い ・きれいな三次元データが得られる
デメリット	・撮影時間がCTに比べ長い(20分～) ・閉所恐怖症の方には不向き ・体内にボルトやペースメーカーなどがある方は撮影できない場合あり	・健康上問題はないが、放射線被ばくがある

放射線科からヒトコト



従前の機器に比べると、患者さまにとっても我々医療従事者にとっても、検査の質・内容が格段に向上することが期待されます。

患者さまにとっては、より快適に・より安心して検査が受けられるよう、また、より診断価値の高い画像を医師に提供できるよう日々努めてまいります。各種検査の内容などについてご不明な点がございましたら放射線科までお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先

医療法人清幸会

三原城町病院 放射線科 ☎0848-64-1212(代)